

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 都立武蔵村山高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）

(2) 事務局の構成 主幹教諭(総務主任兼務)=事務局長、総務部員3名 計4名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、教務主任、主幹教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導担当)、主幹教諭(総務主任)、1学年主任、2学年主任、主幹教諭(3学年担当)、主幹教諭2名 計12名

(4) 協議委員の構成(氏名の掲載も可)

市教育委員会、PTA会長、学校医、近隣中学校長、近隣小学校長、地域代表、警察署員、同窓会 計8名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和6年6月20日(木) 内部委員12名、協議委員8名

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出

学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題

本校の現状と課題等説明、意見交換

第2回 令和7年11月21日(木) 内部委員12名、協議委員7名

学校活動報告、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議

第3回 令和7年3月3日(月) 内部委員12名、協議委員6名

学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議

次年度に向けた方向性の確認

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和6年6月20日(木) 内部委員1名、評価委員3名

学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和7年3月3日(月) 内部委員1名、評価委員2名

学校評価の結果分析・検証への指導助言

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期、方法、対象

・実施時期 令和6年12月中旬から1月中旬まで

・回答方法 生徒・保護者・教職員 Classi アンケート機能

地域・住民 MicrosoftForms もしくは紙面

・対象 全校生徒 801名 回答 603名 (回収率 75.3%)

保護者 801名 回答 503名 (回収率 62.8%)

教職員 54名 回答 19名 (回収率 35.2%)

地域・住民 回答 45名 (回収率前年度53名)

(3) 主な評価項目

学校運営、学習指導、進路指導、生活指導、学校行事・部活動、体罰未然防止、働き方改革

(4) 評価結果の概要

昨年度の保護者回答で『わからない』という選択肢がないため、『どちらかといえばそう思う』を選んだ』『わからない』という選択肢がほしい』という声が複数寄せられたため、選択肢に『わからない』を設定した結果、昨年度より肯定的な割合が下がった項目もあるが、より正確な数値を得られたと捉えている。生徒と保護者の自由記述に加え、今年度は地域の小学校や中学校の教職員のコメントも複数寄せられ、教職員だけでなく生徒への励ましにもなり、今後の活動の動機付けになった。

昨年度のアンケート結果で、教職員の回答と生徒や保護者の回答に差がある項目については、学校経営計画に基づき特に意識して取組みを強化してきたが、昨年度の回答と比較し改善されたといえるだけの数値結果は得られなかった。

(5) 評価結果を受け、校長や学校全般への意見・提言

- ・規範意識の醸成近隣中学校をはじめ地域等から継続的な期待を寄せられ受検倍率に繋がっている。中学校の生活指導は、保護者も含めて対応が難しく苦慮しているため、御校の累積指導の話は興味深い。
- ・御校の生徒が小学校のクラブ活動に参加することによる交流は、非常に価値がある。この活動がきっかけで御校に入学したという生徒が、春から教員を目指して大学に進学すると聞き、好循環がうまれていることを嬉しく思う。今後も続けていきたい。
- ・小学校では、世間の多様性重視の風潮に乗った保護者から、染髪やピアスを容認するような意見が出て、教員の意識も変化してきており、指導に苦慮している。御校の厳しい指導に倣いたい。
- ・御校の写真部と武蔵村山市は、作品の図書館展示や、市主催イベントへの参加等で連携している。P R活動により学校のイメージも変わっていくと思うので、今後も連携を進めていきたい。
- ・子を持つ親の世代も変わり、生活指導も大変だと思う。先生方には、駄目なものは駄目と、しっかり伝えてほしい。T P Oをしっかりと生徒へ教えていただきたい。
- ・教員による中学校や塾訪問の話や、本協議会で聞いたような取組みが成果を上げ、受検倍率に繋がったのだと思う。
- ・アンケート結果から、家庭学習の部分については取組に改善の余地があると感じた。進路指導は学校運営の柱であるが、大学進学だけではなくキャリア教育が重要であり、改善に取り組んでほしい。
- ・自転車事故については非常に心配している。事故に遭った生徒達は「ながら運転」をしていなかったでしょうか。非常に危険な行為であるため、生徒に注意を促し、無事故を目指して指導してほしい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

- ・昨年度に引き続き、学校評価アンケートの結果や自由記述をとおして、生徒・保護者の率直な意見を知ることができた。すべての結果を全教職員で共有し、可能な限り速やかな生徒や保護者対応、事実確認に基づく改善、内部規定の見直しに繋がった。
- ・令和6年度は、新たに生徒会や部活動が武蔵村山市と連携する機会が増えた。このことが、生徒の活躍の幅を広げると共に、地域のさらなる信頼や学校理解に繋がっていることが確認できた。
- ・学校評価アンケートを基に本協議会で学校運営の課題・改善策を協議する必要がある。しかし、今年度学校評価アンケートの回収率が低かった。次年度は、精度の高いデータを基に協議し改善策を学校運営に反映できるよう、アンケート内容の検討及び実施等のスケジュール立案や、生徒・保護者・教職員が確実に回答できる期間を設定するなど改善を図る。また、アンケートの実施と数値データ集約、グラフ作成は総務部、自由記述のまとめとデータ分析は副校長が行う等、組織的運営を目指す。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

生徒の成長に繋がる学校行事、地域連携について、さらに質を高められるよう計画し、取り組む。

生徒の大きな成果だけでなく、日々の取組を積極的に発信することで、本校生徒保護者をはじめ中学校や地域の期待にこたえられるようにする。

(2) 学習指導

家庭学習習慣を身に付けさせるため、学校の経営目標で「5教科すべての授業において、予習復習等課題を課す」ことを継続する。全教員共通認識のもと、成果に結びつく内容、分量、質を確保する。

(3) 特別活動

「生徒が自ら考え実行する」学校行事の実現に向け、今年度よりも更に多くの生徒が関わり、自己肯定感に繋がるよう指導する。

(4) 生活指導

いじめや授業妨害等の問題を未然に防止するため、生徒の道徳心、人権尊重の意識を高める指導を、ホームルームや集会をとおして実施する。また、生徒が未然防止に向け主体的に取り組む、その取組みを発信する機会を設定する。

(5) 進路指導

本校のキャリア教育に必要かつ効果的な進路行事を精選し、3年間の進路指導における位置づけと効果的な事前事後学習を実施する。

(6) 健康・安全

自転車事故の未然防止に向け、自身や他者の命を守るための「交通ルールやマナーの順守、ヘルメットの着用」について継続指導を行う。